

年 組 名前：

富士川町立図書館は、  
同町の富士川地方合同庁



# 甲州弁の否定「ん」考察

富士川で専門家招き講座



舎で、甲州弁にみられる  
否定形の「ん」について  
考察する講座を開いた。  
国立国語研究所（東京  
都立川市）の大西拓一郎  
教授が講師を務めた。大  
西さんは「書かん（書か  
ない）」「行かん（行かな  
い）」など、否定を「な

否定形で「ん」が使われ  
る地域の分布やルーツを  
紹介した講座「富士川・  
富士川地方合同庁舎  
い」ではなく「ん」とす  
る方言は西日本に多い一  
方、山梨県以外の東日本  
ではあまりみられないこ  
とを紹介した。  
甲州弁で「ん」が使わ  
れる理由については、南  
アルプスの山々などの地  
形や「万葉集」の言葉か  
らの変化などを分析し  
「富士川舟運が関係して  
いるのではないか」と考  
察。「生活必需品の塩の  
物流は人々にとつて重要  
なため、身近な言葉に影  
響するほど（西日本との）  
交流があったのではない  
か」と話した。  
講座は図書館の「文学  
歴史セミナー」の第1弾  
として19日に開催。町内  
外から48人が参加した。  
〈深沢滯〉

(2025年1月28日付 山梨日日新聞 14面)

問1 富士川町立図書館が開いた講座は、何について考察する講座でしたか。

.....

問2 次の言葉を甲州弁に変えてください。

・書かない➡.....      ・行かない➡.....

問2 大西教授は、甲州弁で「ん」が使われる理由について、どのように分析し、考察しましたか。

・分析:.....

・考察:.....